

## トップダウンだけではコミュニケーションは生まれない ～取組事例の紹介（自動車編）～

前回は「情報伝達とコミュニケーション」の概要と課題についてお話をしましたが、自動車、鉄道、船舶など業務の形態が違えば、コミュニケーションの取り方もそれぞれに特徴が見られます。そこで、今回から各モードの取組事例をいくつか紹介したいと思います。

自動車モードは、他モードと比べて事故の発生が多い分だけ、取組の効果が見えやすいと言われていています。また、ドライバーの方が一人で業務にあたるため、横の繋がりをいかに持つかが一つのポイントだと言われていています。



### 1. 省エネコンクールを兼ねた安全大会の開催

事故件数削減に取り組んだ結果による損害保険料割引率の拡大、燃費向上による燃料費削減分を原資として、安全運転・エコドライブを行っているドライバーへ還元するため、景品が当たるゲーム大会、安全への誓い等の催しを、毎年1回、企画・実施している。

同社では「タコグラフ」を活用し、ドライバーの安全運転・エコドライブ度を得点化して評価しており、安全大会に参加できるドライバーを年間平均得点上位者とするとともに、その他、評価得点上位者への表彰制度なども実施しています。

基本的に速度を出さない方が事故の確率が少ないうえに、万が一事故が起きても、より軽度を抑えることに着目し、取組を始めたものです。そのうえ、燃費も向上し、事故が減ることで保険料の割引率も維持することが出来る一粒で二度おいしい取組と言えます。



### 2. 家族取込み型

社長から社員及びその家族宛に公共交通事業に従事する社員の社会的立場を訴え、家族の協力をお願いする手紙を送付しています。社員の家族に公共交通事業に従事する社員の社会的立場を理解してもらうことにより、飲酒撲滅等に向けた家族の協力を得るとともに、社員自らも家庭の一員として事故防止の重要性を再認識するというものです。

飲酒を含む健康管理については、家族で取組むことで効果を得ている事業者も多く、社長自らが手紙をお書きになります。また、この会社では道路を使用してプロのドライバーである以上、職務外であっても道路交通法等の違反等は厳しく教育をなされています。

### 3. リーダーの活用

経営管理部門と現場部門との円滑なコミュニケーション確保の為、経営トップを含む経営管理部門による現場巡回・点呼の立会い等に加え、現場と経営管理部門のパイプ役として、事業部に2名の「安全管理官」を専任で配置しました。

「安全管理官」と現場要員との本音による対話を実現させるため、現場要員から信頼される者を選任する必要があり、ドライバー経験者の中から選任しています。

「安全管理官」は、毎日のように営業所を訪問し、所長をはじめ、助役、ドライバー等との直接対話を通じて、営業所の現状、それぞれが抱える課題、問題点等を把握し、毎月、事業部に報告書を提出します。事業部はその内容を把握した上で、安全統括管理者を経由し、社長に報告しています。また、「安全管理官」は業務の性格上、営業所間を行き来することが多く、一営業所の取組み状況等を他の営業所へ伝える役目も担い、営業所間のパイプ役としても機能しています。



### 4. ピュアな声で事故防止

高齢者がより事故防止を意識することを目的として、小学生の声で車内放送を実施。



次回は鉄道編！